

09 助動詞 werden動詞と未来の表現

§ 1 助動詞

【要点】

■ドイツ語には以下のような助動詞があります。

* 日本語の教科書では「話法の助動詞」と呼んでいます。一般に、英語でもドイツ語でも「助動詞」と言い慣わされているものは、言語学の専門から言うと「話し手の考え、気持ち」を表す表現です。これを専門的には「法(modality)」と言います。そこで日本語の教科書では「話し手の〈法〉」という意味で「話法の」という但し書きがついているのです。ちなみに、英語では「直接話法」「間接話法」がありますが、これらはドイツ語の場合の「話法」とは何の関係もありません。

デュルフェン

dürfen: [許可] ~してよい、[否定文で] ~してはならない

キュンネン

können: [可能性] ~できる、~かも知れない

ミヨーゲン

mögen: [推量、好み] ~かも知れない、~を好む

ミュッセン

müssen: [必然性] ~ねばならない、~に違いない

ゾルレン

sollen: [主語以外の意志] ~すべきだ、~だそうだ

ヴォルレン

wollen: [主語の意志] ~するつもりだ

メ ヒ テ ン

möchten: [願望] ~したい

■文中では助動詞は現在人称変化(定形)して「第2位」の位置に置かれます。以下は助動詞の「現在人称変化」の表です。

話法の助動詞の現在人称変化

主語	dürfen	können	mögen	müssen	sollen	wollen	möchten
ich	ダルフ <u>darf</u>	カン <u>kann</u>	マーク <u>mag</u>	ム ス <u>muss</u>	ゾル <u>soll</u>	ヴィル <u>will</u>	メ ヒ テ <u>möchte</u>
du	ダルフスト <u>darfst</u>	カンスト <u>kannst</u>	マークスト <u>magst</u>	ム ス ト <u>musst</u>	ゾルスト <u>sollst</u>	ヴィルスト <u>willst</u>	メ ヒ テ ス ト <u>möchtest</u>
er/sie/es	ダルフ <u>darf</u>	カン <u>kann</u>	マーク <u>mag</u>	ム ス <u>muss</u>	ゾル <u>soll</u>	ヴィル <u>will</u>	メ ヒ テ <u>möchte</u>
wir	デュルフエン <u>dürfen</u>	キュンネン <u>können</u>	ミヨーゲン <u>mögen</u>	ミュッセン <u>müssen</u>	ゾレン <u>sollen</u>	ヴォレン <u>wollen</u>	メ ヒ テ ン <u>möchten</u>
ihr	デュルフト <u>dürft</u>	キュント <u>könnt</u>	ミヨーグト <u>mögt</u>	ミュスト <u>müsst</u>	ゾルト <u>sollt</u>	ヴォルト <u>wollt</u>	メ ヒ テ ッ ト <u>möchtet</u>
sie	デュルフエン <u>dürfen</u>	キュンネン <u>können</u>	ミヨーゲン <u>mögen</u>	ミュッセン <u>müssen</u>	ゾレン <u>sollen</u>	ヴォレン <u>wollen</u>	メ ヒ テ ン <u>möchten</u>

■助動詞が文で使われると、動詞の不定形が文末に置かれます。

例：

ド イ ツ チ ュ

Ich lerne Deutsch.

私はドイツ語を習います。

* 動詞の定形lerneが「第2位」に置かれています。。

Ich muss Deutsch lernen.

私はドイツ語を習わなければなりません。

* 助動詞の定形mussが「第2位」に置かれ、動詞の不定形lernenが文末に置かれています。

■助動詞が使われた文を否定するときは、文末をnicht + 動詞の不定形の語順にします。

例：

Du darfst hier nicht rauchen.

君はここでたばこを吸ってははいけない。

* dürfenとnicht+を一緒に使うと「許可」の否定ですから、「禁止」の表現になります。

§3 werden 未来の表現

【要点】

ヴェルデン

■ werden(=become)の人称変化は注意が必要です。

werden 現在人称変化

主語	ヴェルデン werden
ich	ヴェルデ <u>werde</u>
du	ヴィルスト <u>wirst</u>
er/sie/es	ヴィルト <u>wird</u>
wir	ヴェルデン werden
ihr	ヴェルデット <u>werdet</u>
sie	ヴェルデン <u>werden</u>

■主語になる名詞の他に主語とおなじ格の補語が必要になります。sein動詞と同様です。

例：

レ ナ エルツティン

Rena wird Ärztin.

レナさんは女医になります。

* ドイツ語では補語は多くの場合無冠詞ですが、格は主格です。

アルツト

* die Ärztin: 女医 は男性名詞der Arzt: 医師 の女性形です。ドイツ語では職業名は原則男性名詞で、語尾に-inを付けると女性名詞になり、職についている女性を指すことになります。

■werdenを助動詞として使うこともできます。意味は「未来の推測　～だろう」です。文末に不定形の動詞を置きます。

例：

ウニ

Rena *wird* an der Aogaku Uni Deutsch lernen.

レナさんは青学でドイツ語を習うでしょう。

ユニヴェアズィテート

* die Uni = Universität
